

教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

河野 真子・高等教育学コース・博士後期課程3年

国際学会：Critical University Studies Conference

参加地・期間：香港・2024/6/19-21

発表題目：Situated Learning in Japanese Kenkyushitsu and its Underlying Philosophy

成果の概要

6月19日から6月21日までの3日間に香港で実施されたCritical University Studies Conference (CUSC)に参加しました。個人発表は6月20日の3番目のセッション (Session 6D) に割り当てられました。1セッションは2時間で、同セッションの他の発表は、フィリピン大学准教授のJ Aleta Villanueva、アラバマ大学教授のKarri A. Holley、オックスフォード大学で博士号を取得したばかりのSoyoung Leeと、4名が異なる国からの参加で、貴重な学术交流の機会となりました。初めての学会発表でしたので、特に今回は、日本の教育実践について英語で正しく伝わるかどうか、どのように受け止められるのか、ということを確認することが目的でした。結果として、発表後の質疑応答でたくさんのフィードバックや質問をいただいただけでなく、ランチタイムやレセプションの時間も感想を話しかけていただくなど、意義のある意見交換の時間となりました。終日英語で会話をするのはやはり疲れるので、個人で食事に行く方が楽ではありますが、学会にランチやレセプションが含まれているのは、そのような時間が大事な意見交換・ネットワーキングの機会であることが認識されているからだと感じました。オンラインではなく対面で話をする、インフォーマルな雰囲気でも偶然目の前にいた方に話しかけることで、思わぬ興味深い話を聞いたことや、情報を得ることがありました。また、プレイベントのIDERN(International Doctoral Education Research Network)に参加できたことも、大きな学びの機会となりました。IDERNは博士課程教育を対象に研究をしている研究者の国際ネットワークで、今回は21名が参加していました。CUSCよりも小規模でより限定された課題について、よりインタラクティブに学び合うようにプログラムが作られていました。具体的には、2日の間に同じメンバーで3回ディスカッションをする時間があり、①全体でのレクチャー (もしくはパネルディスカッション)、②グループディスカッション、③各グループのディスカッション内容を全体に共有、というサイクルが3回繰り返される、という構成でした。グループディスカッションでは、直前のレクチャーの内容に加えて、リーダーが事前に読んでくる文献およびキークエスチョンズを指定していただき、その論文の内容も含めて批判的に議論をする、というものでした。まず、最初のグループセッションで自己紹介、特に各自の研究についてお互いの理解を深める時間が設けられていたので、ディスカッションでは自分の研究との関連についても指摘をいただき、考えを深めることができました。

私は社会人学生として博士課程に入ったために、なかなか申請できる研究助成がなく、今回もこの助成がなければ国際学会への参加は諦めていたと思います。フィードバックだけではなく、エンカレッジメントをいただいたことは、今後の研究を進めていく上での力になりました。貴重な機会をいただきありがとうございました。